

株式会社舞台ファームの取り組み

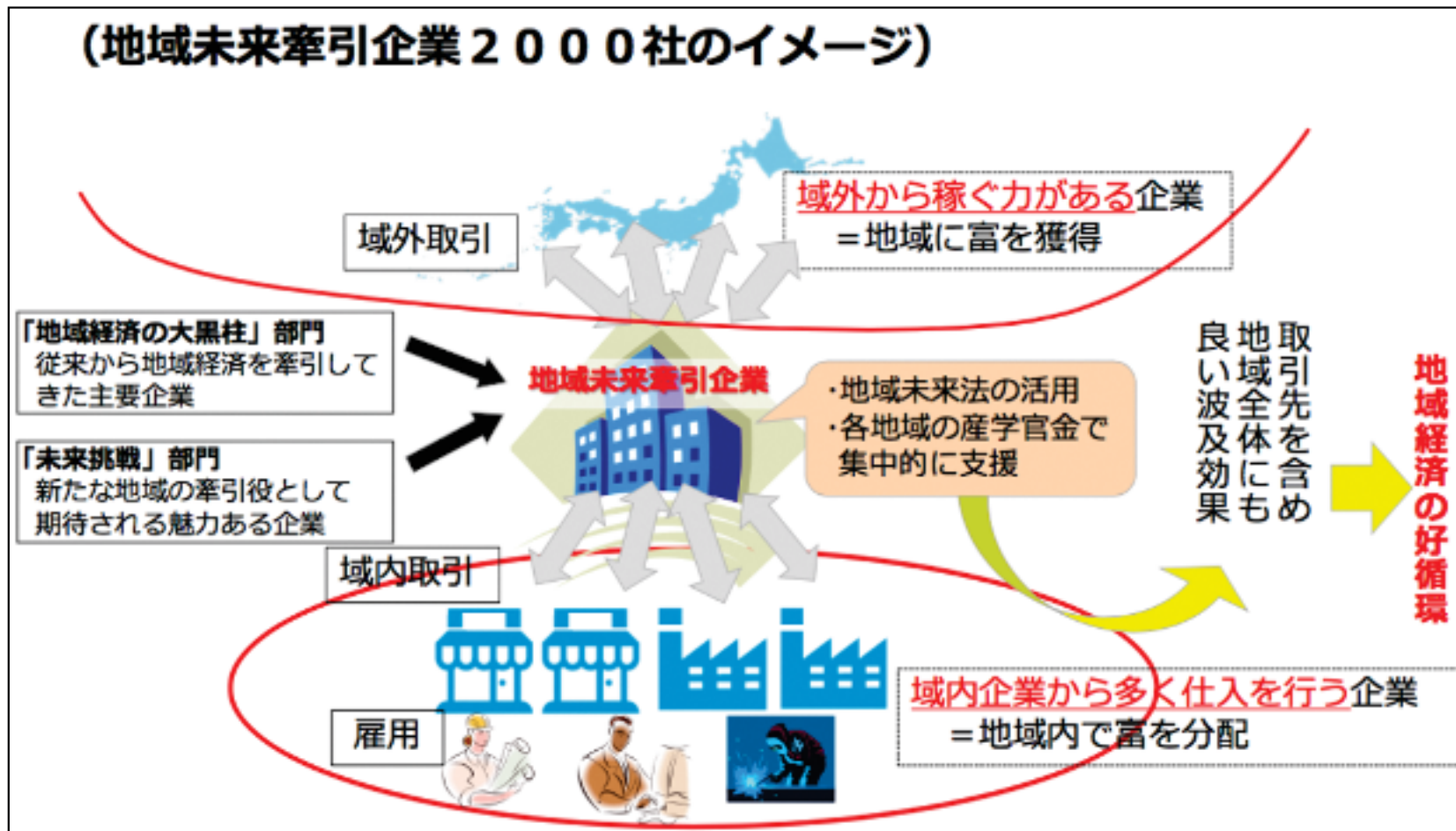
～福島沿岸地域の農業復興に向けて～



株式会社舞台ファーム 代表取締役 針生 信夫

■所在地	仙台市若林区日辺字田中11番地
■代表取締役	針生 信夫
■設立	有限会社 舞台ファーム 2003年7月11日 株式会社 舞台ファーム 2004年8月20日
■売上高・資本金	売上高:19.7億円<H29年6月期>、(グループ全体:30.4億円) 資本金:5,000万円
■従業員	50名 (グループ全体:約250名)
■業務内容	野菜:生産・販売(電解水農法) お米:生産・販売(玄米、胚芽米、白米、無洗米) 農産物加工・販売(カット工場)
■取得資格	全省庁統一入札参加資格(関東・甲信越地域、東北地域) 仙台市中央市場青果市場売買参加者資格(青果部 第2-111号) 米、卸売販売資格、農業生産法人資格、認定農業法人資格 仙台市飲食店営業許可(仙台市(若保衛)指令 第0289号) エコファーマー認定資格
■関連会社	(株)みちさき : 水耕栽培(トマト、イチゴ、葉物類) (株)旬の風 : 宅配寿司「銀のさら」店舗運営 e-フレッシュ(株) : カット野菜・業務用野菜 (一社)ステージパス : 障がい者就労継続支援 舞台アグリイノベーション(株) : 精米事業・玄米流通

「地域未来牽引企業」として、舞台ファームが選定！（他薦→選定）



(経産省資料資料より抜粋)

地域の牽引を期待される企業2,148社が全国で選定される

舞台ファーム管理農地の完全破壊、そして備蓄していたお米が流出

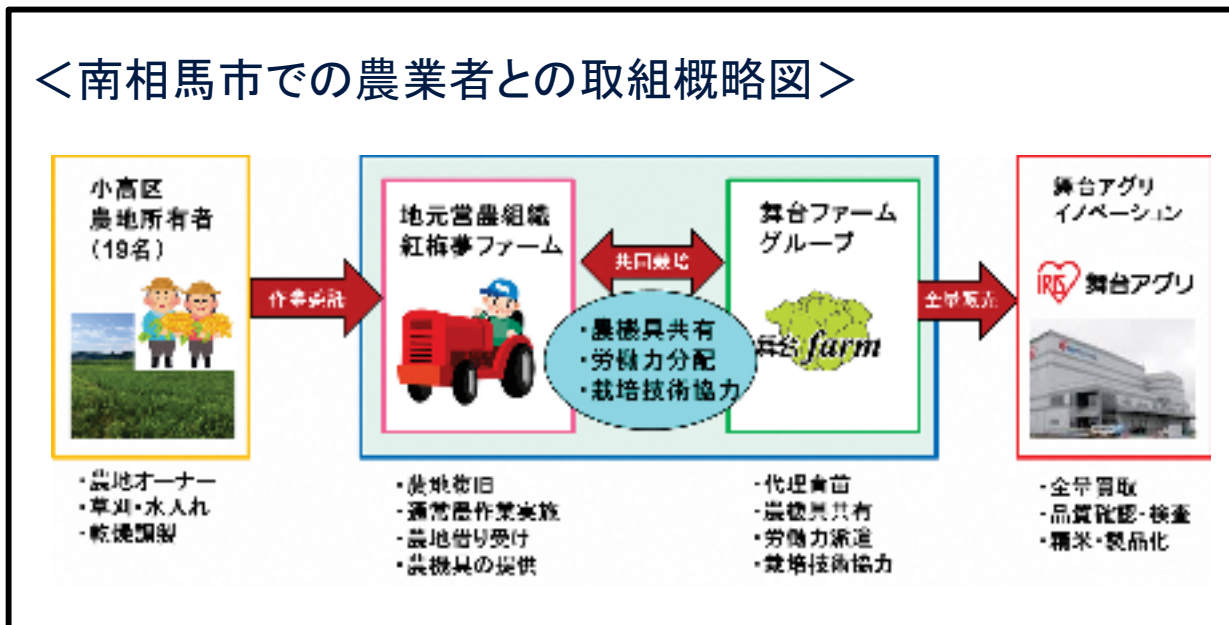
- 米の備蓄倉庫が流出 → その後の価格高騰もあり「約4億円」の債務超過へ。
- 在庫の野菜や物資 → すぐさま沿岸被災エリアへ供給、炊出しを実施。



避難地域解除に伴い、6年ぶりのコメの作付を地元農家と連携して支援！

- 平成29年 地元農家と連携し、「天のつぶ」を約11.0ha栽培。
- 全国的な天候不良だったが、数量・品質ともに順調に成長。
- 小高地区がフラッグシップとなり、南相馬市内別地区の農家も合流。
- 南相馬市産天のつぶを「66トン」収穫。
- アイリスオーヤマが全量買取し「パックライス」に加工。
- 平成30年は約27haに作付けし、約146トンの収穫見込(前年比221%)。

＜南相馬市での農業者との取組概略図＞





作付け前の圃場の様子



2017年4月8日 山本地方創生大臣来訪



2017年5月21日 田植えの実施



2017年10月2日 稲刈りの実施

「浪江町 × 舞台ファーム」：農業に関する「包括連携協定」を締結

■H30年3月20日(火):浪江町と舞台ファームにて「包括連携協定」を締結。

→ 浪江町の農業の復興に向けて、各種連携しながら取り組んで行く。

■具体的には、「営農再開プランの策定支援」「担い手育成の取組み」等を実施。



① インフラ① = 圃場整備・水系などの復旧

- 圃場整備の遅れ。鳥獣被害による圃場の損壊。水系復旧の遅れなど。
- 地元農業者および行政と課題点を共有 → 可及的速やかに復旧を実施。

② インフラ② = 乾燥調整設備、集荷検査倉庫、農機具不足

- 農耕用機械の破損、または全く無くなってしまった状況。
- 最も大きなネック = 乾燥調整設備、および集荷検査倉庫。(放射線検査必須)
- 販路を農業者にご提供する = ライスセンターを構築→最大活用できるようにする

③ 人材面 = 住民の帰還、担い手不足、やりがいの提供

- 農業者に「やりがい」を感じていただける農業のご提案。
- アイリスオーヤマの全量買取契約による安心感 = 核になる農業者との連携。
- 買取だけではなく、生産段階からの手厚い支援(苗作り、防除支援、技術指導など)。

④ 販路面 = 販路が無い、作っても売れないという諦念

- 最大で「1万トン」まで購入可能な圧倒的販路を提供。全量買取契約による安心感。
- 放射線のダブル検査体制 = 安心安全で美味しいパックライス販売。

ステークホルダーと連携し、「日本農業の課題解決」に取り組めます。

「取引」ではなく「取組」として、連携先がお互いに成長していくことのできる、「農業者舞台ファーム独自の仕組み」を構築していきます。



連携先と地域社会が良くなれば舞台ファームが良くなり、舞台ファームが良くなれば、連携先と地域社会が良くなる仕組み作り